

「政策の目標」	政策目標 6－2：開発途上国における安定的な経済社会の発展に資するための資金協力・知的支援を含む多様な協力の推進			
(評価書 406 頁)				
評価意見				
評価基準ごとの審査		評価の判断理由等		
1 「政策の目標」の達成度		<p>(基本的状況) 米国のサブプライム・ローン問題に端を発する金融市場の混乱の影響が途上国へと波及し、国際開発金融機関(MDBs)等を活用した支援や円借款が一層重要となっている。我が国は、国内の厳しい財政状況や国民の意見を十分に踏まえ「政府開発援助大綱」や「政府開発援助に関する中期政策」等に沿った効果的・戦略的な途上国支援を行う必要がある。</p> <p>(20年度の運営概況) 世界的な金融危機の影響を受けた途上国への支援に迅速に取り組んだ。例えば、世銀グループと協力し脆弱層支援枠組みの創設に尽力した。その中で、中小途上国銀行の資本増強支援のため、国際金融公社(IFC)とJBICが共同で「途上国銀行資本増強ファンド」を1月に設立した。他のMDBsにおいても、危機対応のための施策の実現のために積極的に関与し、特にアジア開発銀行(ADB)の資金基盤の強化については、あらゆる機会を活用して各国への働きかけを行い、早期合意のための環境整備に貢献した。</p> <p>また、2月には金融危機による信用収縮が貿易金融の円滑な供給に与える影響を緩和することを目的として、JBICを活用した「貿易金融イニシアティブ」を発表した。更に3月には途上国における環境投資を支援するため、「環境投資支援イニシアティブ」を発表した。</p> <p>二国間支援では、インドネシアに対する金融協力として、同国による円滑なサムライ債発行を支援するため、JBICによる最大15億ドル相当の保証付与を発表した。</p> <p>円借款については、アジア地域を中心としつつ、5年間で総額40億ドルのアフリカ向け円借款供与を表明した第4回アフリカ開発会議(TICADIV)等のイニシアティブを踏まえ、総額8,443億円の供与を決定した。また、円借款・技術協力・無償資金協力の一元的実施による戦略性・効率性を高めるため、10月に国際協力銀行(JBIC)の円借款部門と国際協力機構が統合された。</p> <p>知的支援に当たっては、技術援助先の要望や意見を集約し、且つ財政・経済分野の技術援助関係者間の円滑な調整を行うことで、より効率的・効果的な支援となるよう取り組んだ。</p> <p>(達成度に係る評価の理由等) 金融危機が途上国に及ぼす影響に対処するために、国際金融機関等との連携および二国間双方の枠組みで、開発途上国の安定的な経済社会の発展に資する様々な資金協力等の具体的枠組みを創設した。</p> <p>例えば、上記「途上国銀行資本増強ファンド」については、20年度中に第一号案件が承認されるなど、途上国の資金ニーズに迅速且つ積極的に応えた。また、ADBの資金基盤の強化については、我が国からの各国からの働きかけの結果、早期合意のための環境が整えられた。</p> <p>以上のことから、「A 達成に向けて相当の進展があった」と評価した。</p> <p>(今後の課題) 21年度は、世界的な金融危機や経済の悪化が途上国にもたらす影響を注視しつつ、引き続き国際開発金融機関及び諸外国と援助の推進に取り組む。</p> <p>また、必要に応じ国際開発金融機関(MDBs)の資金基盤を増強するともに、世界的な危機が脆弱層に与える影響を緩和するためのMDBsの取組みを支援していく。その際、的確に把握された支援ニーズ等、MDBsが有する長所を認識しつつ、主要出資国として我が国のODA政策・開発理念をMDBsの政策に反映させていく。</p>		
2 事務運営のプロセスの適切性、有効性、効率性		<p>(事務運営プロセスに係る評価の理由等) (適切性) 施策の目的と手段の関連性については、評価書本文の中で可能な限り具体的に説明しており、適切であった。</p> <p>(有効性) 開発途上国の安定的な経済社会の発展に資する様々な資金協力等の具体的枠組みを創設したこと、支援実施に当たって様々な関係機関と連携・協調したことから、概ね有効であった。</p> <p>(効率性) 二国間ODAの実施に当たり、円借款、技術協力、無償資金協力の一元的実施を可能とするため、国際協力銀行の円借款部門と国際協力機構が統合されたこと、支援実施に当たって様々な関係機関と連携・協調したことから、概ね効率的であった。</p>		

3 結果の分析の的確性 おおむね的確に行われている。	(結果の分析の的確性に係る評価の理由等) 評価書における結果の分析の出所が明らかであり、かつ当該年度までの掲載期間が適切な統計データに基づいていることより、概ね的確に分析されている。
4 当該政策や、政策評価システムの運用の改善への提言 政策について有益な提言がなされている。	(今後の提言等) (政策の改善) すでに着手された継続的な案件も含め、具体的に掲示されている。
講評 (財務省の政策評価の在り方に関する懇談会)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国為替資金特別会計のドル資金を活用して、J B I Cを通じ緊急融資を行ったことは非常に良いことだと考える。また、その際、今回のように、国民に対して透明性を高めてもらうことは必要である。 ○ 資金協力・知的支援については、円借款等は拡充されているが、ODA予算の大幅な減額によって、日本の国際貢献における地位の低下がおきていることから、「B達成に向けて進展があった。」にすべきである。 ○ 主要国際機関における日本人職員、幹部の数を増加させることは重要である。こういった指標を掲げ、着実に努力をしていることを評価する。